

令和元年度千葉県臨床検査技師会血液検査サーベイ中間報告

令和元年度千臨技サーベイの血算部門・血液像部門の中間報告を作製いたしました。中間報告の為、後日報告されます報告書とは結果が異なる場合もありますことをご了承ください。

この報告を各施設で有効活用して頂けると幸いです。

2019年12月18日

血液検査研究班 仙波利寿

【精度管理担当者】

千葉県救急医療センター 長津 知嗣

船橋市立医療センター 福田 幸広

亀田総合病院 本井 貴子

旭中央病院 佐藤 文美

順天堂大学医学部附属浦安病院 森本 愛

成田赤十字病院 笹尾 祐太

君津中央病院 瀧上 司

千葉大学医学部附属病院 仙波 利寿

■血算部門

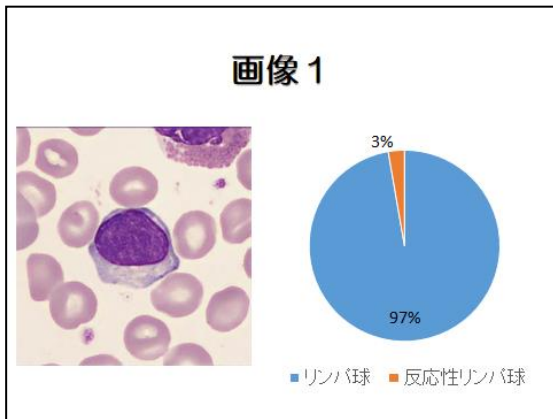
項目	全測定件数					±3SD 2回切断後						
	試料	件数	平均	SD	CV	件数	平均	SD	CV	最大値	最小値	除外件数
白血球 ($\times 10^9/L$)	A	128	5.4	0.22	4.14	124	5.46	0.14	2.65	5	5.8	4
	B	128	4.4	0.17	3.8	126	4.36	0.13	2.98	4	4.6	2
赤血球 ($\times 10^{12}/L$)	A	128	4.71	0.16	3.31	123	4.729	0.06	1.29	4.57	4.88	5
	B	128	3.72	0.12	3.3	124	3.703	0.05	1.24	3.57	3.8	4
ヘモグロビン濃度 (g/dL)	A	128	13.7	0.43	3.13	126	13.76	0.16	1.13	13.3	14.2	2
	B	128	10.8	0.35	3.2	126	10.79	0.12	1.08	10.5	11.1	2
ヘマトクリット (%)	A	128	40.2	1.48	3.68	125	40.34	0.77	1.91	42.7	38.8	3
	B	128	31.4	1.19	3.78	124	31.2	0.61	1.94	33.1	30.1	4
MCV (fL)	A	128	85.4	1.65	1.94	124	85.2	1.36	1.6	89	81.9	4
	B	128	84.4	1.69	2	123	84.2	1.34	1.6	88.2	81	5
PLT ($\times 10^9/L$)	A	128	267.1	12.46	4.66	127	267.4	11.9	4.45	232	295	1
	B	128	242.6	10.68	4.4	125	242.9	9.4	3.87	215	263	3

表 1. 全機種による CBC の集計

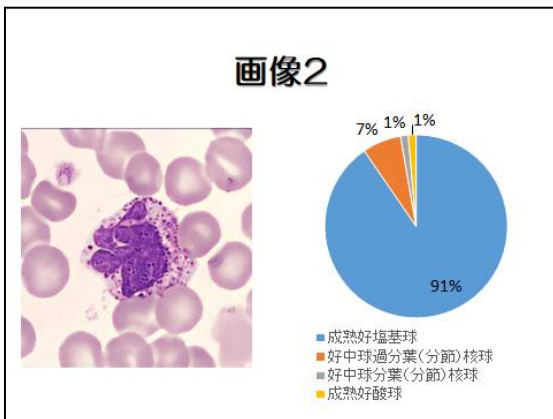
■血像部門

【サーベイ検査結果速報】

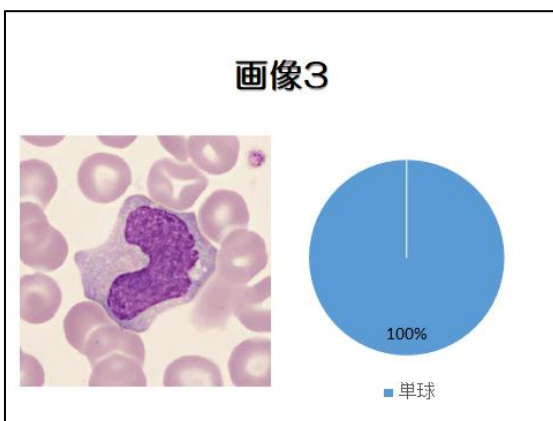
画像 1～18 は正常末梢血のライト・ギムザ染色です。
画像 19～21 は患者末梢血のライト・ギムザ染色です。



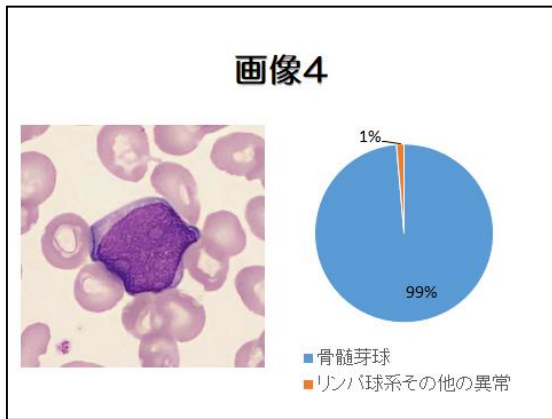
設問 1 (画像 1)
リンパ球 97%、反応性リンパ球 3%という結果となりました。



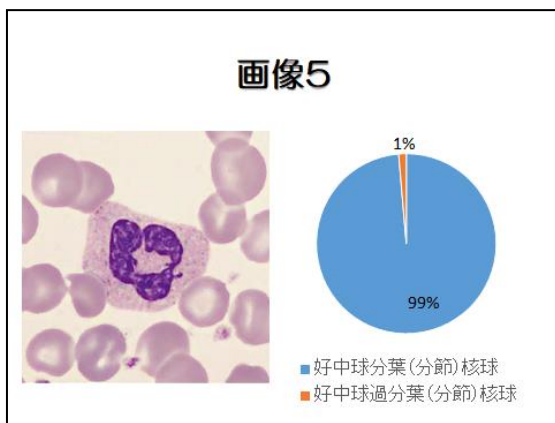
設問 2 (画像 2)
成熟好塩基球 91%、好中球過分葉(分節)核球 7%、好中球分葉(分節)核球 1%、成熟好酸球 1%という結果となりました。



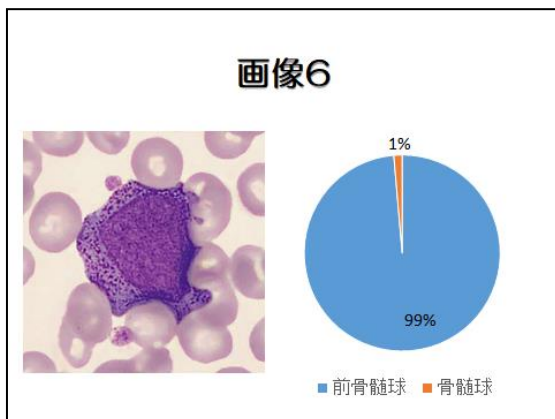
設問 3 (画像 3)
単球 100%という結果となりました。



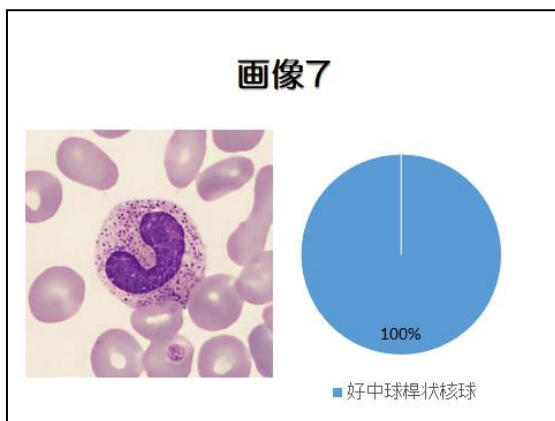
設問4 (画像4)
骨髄芽球 99%、リンパ球系その他の異常 1%という結果となりました。



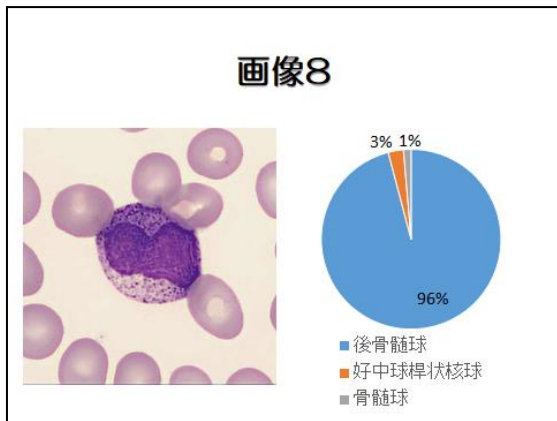
設問5 (画像5)
好中球分葉(分節)核球 99%、好中球過分葉(分節)核球 1%という結果となりました。



設問6 (画像6)
前骨髄球 99%、骨髄球 1%という結果となりました。

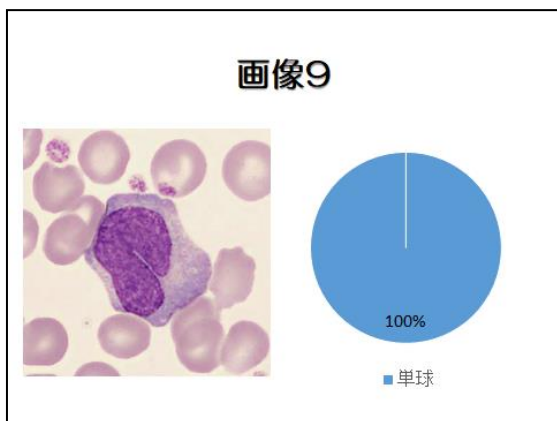


設問7 (画像7)
好中球桿状核球 100%という結果となりました。



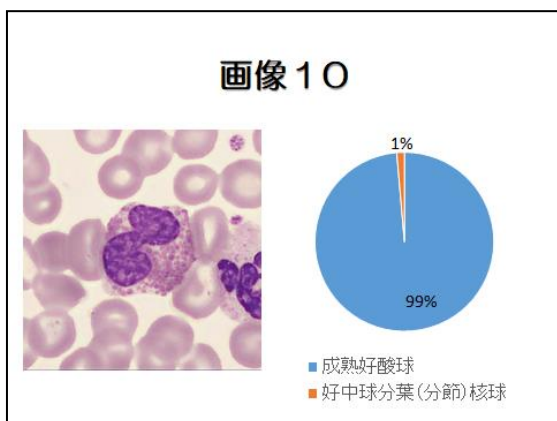
設問 8 (画像 8)

後骨髓球 96%、好中球桿状核球 3%、骨髓球 1%という結果となりました。



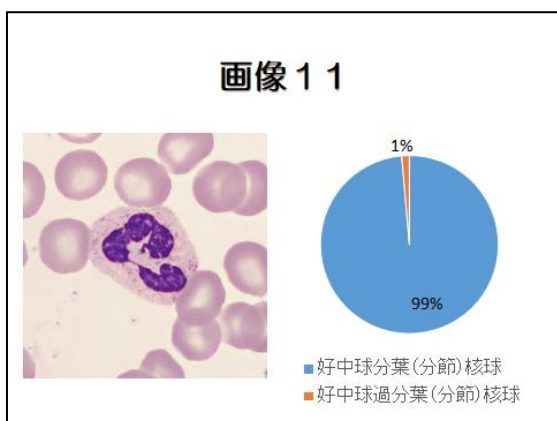
設問 9 (画像 9)

単球 100%という結果となりました。



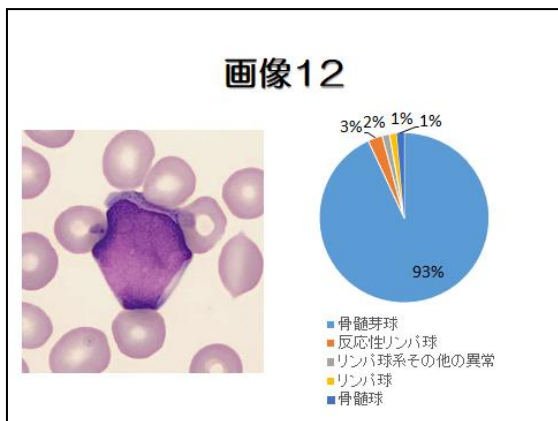
設問 10 (画像 10)

成熟好酸球 99%、好中球分葉(分節)核球 1%という結果となりました。



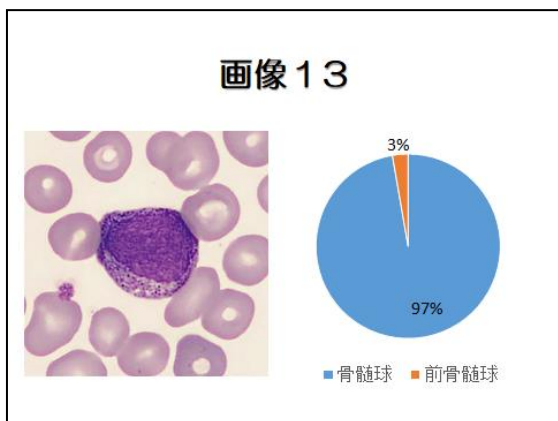
設問 11 (画像 11)

好中球分葉(分節)核球 99%、好中球過分葉(分節)核球 1%という結果となりました。



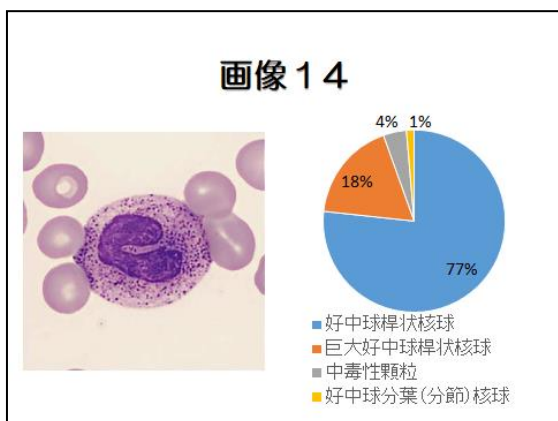
設問 1 2 (画像 1 2)

骨髓芽球 93%、反応性リンパ球 3%、リンパ球系その他の異常 2%、リンパ球 1%、骨髓球 1%という結果となりました。



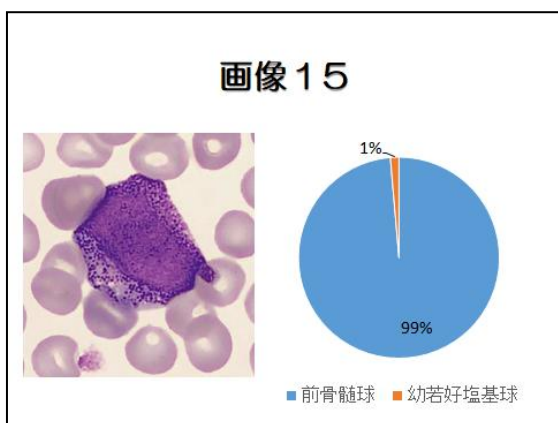
設問 1 3 (画像 1 3)

骨髓球 97%、前骨髓球 3%という結果となりました。



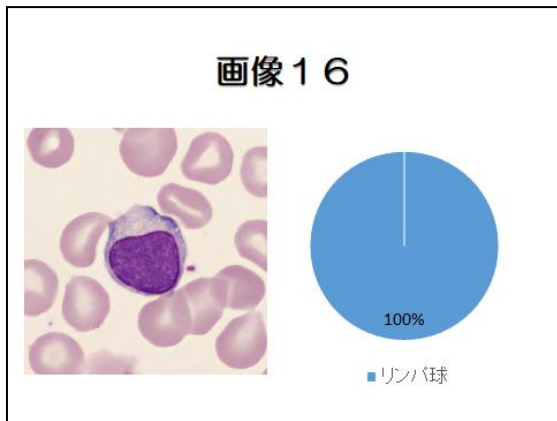
設問 1 4 (画像 1 4)

好中球桿状核球 77%、巨大好中球桿状核球 18%、中毒性顆粒 4%、好中球分葉(分節)核球 1%という結果となりました。



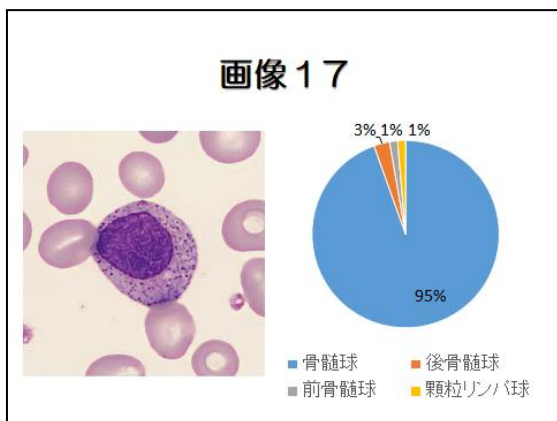
設問 1 5 (画像 1 5)

前骨髓球 99%、幼若好塩基球 1%という結果となりました。



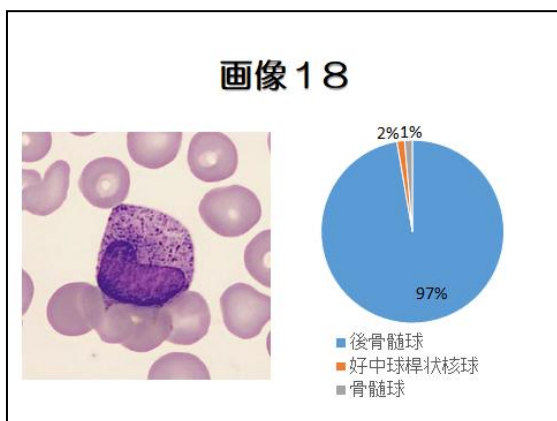
設問 16 (画像 16)

リンパ球 100%という結果となりました。



設問 17 (画像 17)

骨髄球 95%、後骨髄球 3%、前骨髄球 1%、顆粒リンパ球 1%という結果となりました。



設問 18 (画像 18)

後骨髄球 97%、好中球桿状核球 2%、骨髄球 1%という結果となりました。

【画像 19、20 患者背景】

20 歳代 女性

倦怠感のため近医を受診し血液検査を実施したところ、血小板減少を指摘。

精査加療目的の為、血液内科紹介となる。

血算データ (分析装置データ)

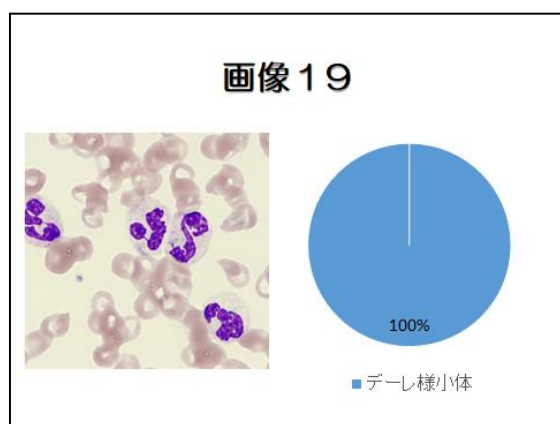
WBC $7.5 \times 10^9/L$ (3.6~8.8)、RBC $4.10 \times 10^{12}/L$ (3.77~5.55)、Hb 12.9g/dL (12.5~17.3)、
Ht 40.3% (37.1~50.7)、PLT $37 \times 10^9/L$ (150~350) ※目視データ $83 \times 10^9/L$ (150~
350)

血液像データ (分析装置データ)

好中球 53.4%、好酸球 0.8%、好塩基球 0.1%、単球 9.3%、リンパ球 36.4%

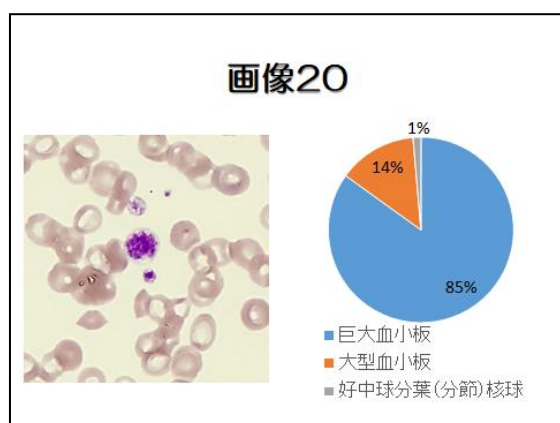
生化学データ

AST 15U/L (13~33)、ALT 9U/L (8~42)、LD 156U/L (119~229)、
ALP 143U/L (115~359)、TP 7.9g/dL (6.5~8.5)、アルブミン 4.5g/dL (3.9~4.9)、
Ca 8.6mg/dL (8.6~10.1)、T-Bil 0.5mg/dL (0.2~1.3)、CRP 0.4mg/dL (0.3 以下)、



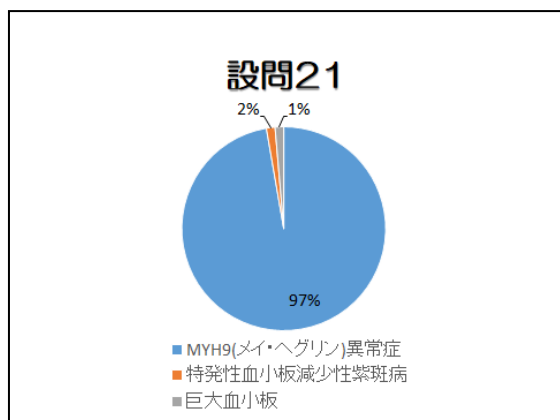
設問 19 (画像 19)

デーレ様小体 100%という結果となりました。



設問 20 (画像 20)

巨大血小板 85%、大型血小板 14%、好中球分葉(分節)核球 1%という結果となりました。



設問 2 1

MYH9（メイ・ヘグリン）異常症 97%、特発性血小板減少性紫斑病 2%、巨大血小板 1%という結果となりました。

【画像 21 患者背景】

60 歳代女性。倦怠感、食欲不振で近医受診。血液検査で血小板減少を認めた。また、再採血をし、手技等は問題なく行えたが同様の結果だった。

血算データ

WBC $10.8 \times 10^9/L$ (3.6~8.8)、RBC $3.98 \times 10^{12}/L$ (3.77~5.55)、Hb 12.7g/dL (12.5~17.3)、Ht 37.9% (37.1~50.7)、PLT $35 \times 10^9/L$ (150~350)

※再採血後

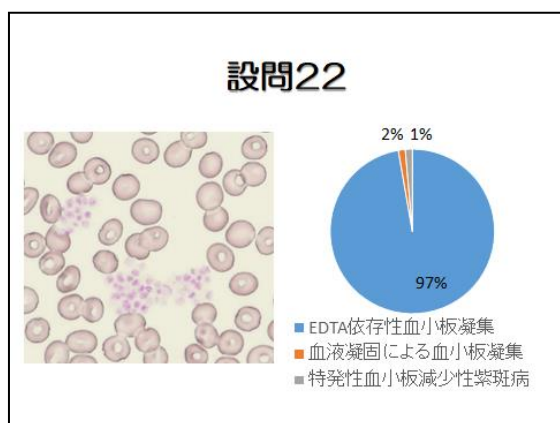
WBC $10.6 \times 10^9/L$ (3.6~8.8)、RBC $3.97 \times 10^{12}/L$ (3.77~5.55)、Hb 12.6g/dL (12.5~17.3)、Ht 37.6% (37.1~50.7)、PLT $37 \times 10^9/L$ (150~350)

血液像データ（目視データ）

好中球 72.5%、好酸球 1.5%、好塩基球 0.5%、単球 7.5%、リンパ球 18.0%

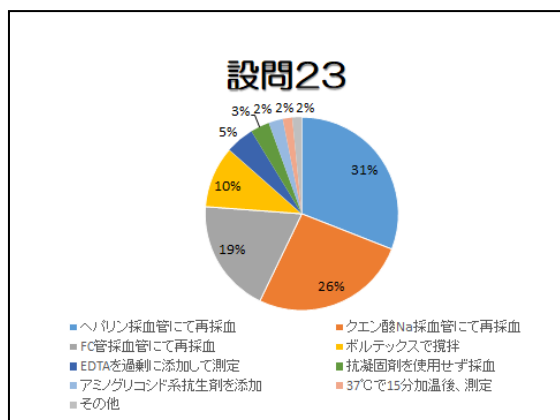
生化学データ

AST 15U/L (13~33)、ALT 10U/L (8~42)、LD 198U/L (119~229)、TP 7.4g/dL (6.5~8.5)、アルブミン 3.2g/dL (3.9~4.9)、ALP 152U/L (115~359)
CRP 1.2mg/dL (0.3 以下)



設問 2 2（画像 2 1）

EDTA 依存性血小板凝集 97%、血液凝固による血小板凝集 2%、特発性血小板減少性紫斑病 1%という結果となりました。



設問 2 3 (評価対象外)

ヘパリン採血管にて再採血 31%、クエン酸 Na 採血管にて再採血 26%、FC 管採血管にて再採血 19%、ボルテックスで攪拌 10%、EDTA を過剰に添加して測定 5%、抗凝固剤を使用せず採血 3%、アミノグリコシド系抗生剤を添加、37°Cで 15 分加温後測定、その他がそれぞれ 2%という結果となりました。